

少し前ですが、ある脳研究者の方が「同調」について書かれているコラムを読みました。私はこれを読んだとき、とても違和感を感じてしまいました。一流の脳研究者の方でも視野は国内しかないのかな？ などと思ってしまったのです。

コラムを要約すれば、「塩ラーメンが食べたと思ってラーメン屋さんへ行ったのだけど、前の10人ほどの人たちが皆、醤油ラーメンを頼むので、思わずこの先生も醤油ラーメンを頼んだ」という事実から始まります。これを先生は「周囲が同じ行動をすると、類似した振る舞いをせざるを得ない雰囲気になる。このように私たち人間の場合『皆がそうするから』という集団圧力に屈して意見や行動を変えることを『同調』という」と定義しています。

私が違和感を持ったのは「私たち人間」ではなく「私たち日本人」であって、「人間」を代表するのはおかしいと引かかったからなのです。なぜか？ それはまさにこれと同じ状況を体験したからです。そしてその結論が全く正反対の国の人がいるということに強く印象を抱いたからです。

場所はスイスのローザンヌ。レマン湖のほとりです。とても素敵なレストランでした。そこには20人近いビジネスパーソンがランチ・パーティに集まっていました。国籍は完全にバラバラで、日本人は私一人でした。ランチは3つのコースから選べるものでした。魚と肉と野菜という、欧米ではよくあるチョイスです。

一番向こうのイタリア人は「僕は、肉」、次はスイス人「僕は魚」、次はノルウェー人「私も魚」、アメリカ人「ダイエット中だから魚で」、ドイツ人「うん、この湖の魚は有名だからね。

私も魚で」、日本人（私）「じゃあ、私も魚」、隣のフランス人「僕は肉」……でウエイトレスは引き上げて行きました。

その1分後、「あー、またやってしまった。本当は僕だってレマン湖の鱒（これは有名な料理です）を食べたかったんだ。なんてこった」と言うわけです。

私は何のことを言っているのか皆目検討が付きませんでした。ですが、周りにいたイタリア人やスイス人はニヤニヤしていかにもわかっている風でした。もう一人のフランス人が私に解説してくれました。

「フランス人は子供の頃から、人と違うことが大切であり、人と同じことは存在価値がない、と教育されているんだ。だから、『皆』が揃って同じことをやるのを見るととても嫌悪感が湧いて、つつい違うことをしようとするんだ。これはもうフランス人の習性だね」。

上記の先生が説く「同調」文化で育ってきた私には、確かに日本人とは正反対だと思いました。かつ、そのフランス人の習性を周りのイタリア人やスイス人は「常識」として知っているのにも感心しました。

フランス人の辞書には、上記の先生が唱える「同調」という文字はないのでしょうか。フランス人がクリエイティビティを重んじるというのは、単なるイメージではないのだと思いました。子供の頃からこれだけ植えつけられていれば、そりゃあそもその考え方が違うのは当然です。

日本人が当たり前と考える習慣を、正反対に考える国があるということもきちんと理解しておかねばなりません。

たぎき まさみ STR パートナース代表。

フランス人の クリエイティビティ